



今日のトピック 7-9月期の企業業績は1桁台の増益率となる見通し 業種間のばらつき拡大と下方修正リスクに留意

ポイント1 7-9月期の決算発表がスタート 1桁台の増益率となる見通し

- 10月に入り7-9月期の決算発表がスタートします。決算発表が集中するのは10月下旬から11月第2週です。現時点でコンセンサス予想を見ると、売上高の伸び率は4-6月期とほぼ同水準ですが、経常利益が前年同期比+4.3%、当期利益が同+7.2%と1桁台の増益率にとどまる見通しです。

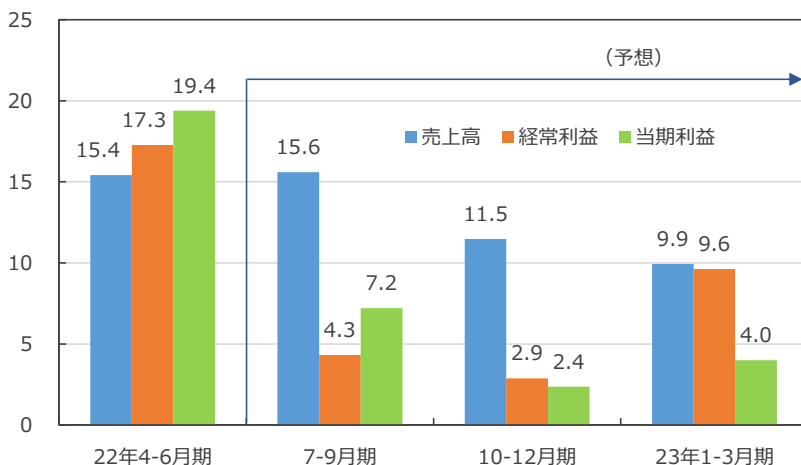
ポイント2 業種によってまちまち

- 業種別に7-9月期の当期利益を見ると、製造業は前年同期比+5.1%、非製造業は同+10.3%です。製造業では食品、繊維製品、石油石炭製品、鉄鋼、非鉄金属などが同▲20%～▲80%の減益となる見通しです。一方、機械、電気機器、輸送用機器は同+20%前後の増益となる見通しです。非製造業では陸運業、空運業の黒字転換が予想されています。

今後の展開 業種間のばらつき拡大と下方修正リスクに留意

- 足元の生産活動、設備投資計画は堅調で、企業活動は好調です。その一方で、円安や輸入物価の高騰によるコスト負担の増加が業績に悪影響を与えており、企業業績は業種間のばらつきが拡大し、全体として増益率が抑えられやすい状況にあります。加えて、10-12月期はさらに増益率が低下することが見込まれており、一段の下方修正リスクにも留意する必要があります。

(前年同期比、%) 【TOPIX採用企業の業績見通し】



(注) データは2022年4-6月期～2023年1-3月期。2022年10月4日現在。TOPIX採用企業ベース(3月期決算、除く金融・ソフトバンクグループ)。予想はコンセンサス。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも チェック!

2022年9月 5日 日本株式市場は割安圏で落ち着いてしまうのか
2022年8月24日 日経平均、目指すは4万円台か

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。